



グレースフル挿入と削除の設定

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでグレースフル挿入と削除（GIR）を設定する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [グレースフル挿入と削除について](#) (1 ページ)
- [メンテナンス モード（GIR）のワークフロー](#) (4 ページ)
- [プロファイル](#) (4 ページ)
- [メンテナンス モードプロファイルの設定](#) (5 ページ)
- [通常モードプロファイルの設定](#) (7 ページ)
- [スナップショットの作成](#) (8 ページ)
- [スナップショットへの show コマンドの追加](#) (9 ページ)
- [グレースフル削除のトリガー](#) (12 ページ)
- [グレースフル挿入のトリガー](#) (14 ページ)
- [メンテナンス モードの強化](#) (16 ページ)
- [GIR 設定の確認](#) (17 ページ)

グレースフル挿入と削除について

グレースフル挿入と削除を使用してスイッチを正常に取り出し、そのスイッチをネットワークから分離して、デバッグ操作やアップグレード操作を実行することができます。スイッチは、最小限のトラフィックの中断だけで、通常の転送パスから取り外されます。デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入を使用して、そのスイッチを完全な運用（通常）モードに戻すことができます。

グレースフル削除では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが正常に停止し、スイッチはネットワークから分離されます。グレースフル挿入では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが復元されます。

次のプロトコルは、IPv4 と IPv6 両方のアドレス ファミリでサポートされます。

- Border Gateway Protocol (BGP)
- Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)

- Intermediate System-to-Intermediate System (ISIS)
- Open Shortest Path First (OSPF)
- Protocol Independent Multicast (PIM)
- Routing Information Protocol (RIP)



(注) グレースフル挿入と削除の場合、PIMプロトコルはvPC環境にのみ適用できます。グレースフル削除の間、vPC転送ロールがマルチキャストトラフィックのすべてのノースバウンド送信元に対するvPCピアに転送されます。

プロファイル

デフォルトでは、すべての有効なプロトコルは、グレースフル削除中に分離され、グレースフル挿入時に復元されます。プロトコルは、定義済みの順序で分離および復元されます。

プロトコルを個別に分離、シャットダウン、または復元する（あるいは追加の設定を実施する）場合は、グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、プロファイルを作成できます。ただし、プロトコルの順序が正しいことを確認し、すべての依存関係を考慮する必要があります。

スイッチは、次のプロファイルをサポートしています。

- メンテナンスモードプロファイル：スイッチがメンテナンスモードになったときに、グレースフル削除中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。
- 通常モードプロファイル：スイッチが通常モードに戻ったときに、グレースフル挿入中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

プロファイルでは、次のコマンド（および任意の設定コマンド）がサポートされています。



(注) ルーティングプロトコルインスタンスまたはメンテナンスモードプロファイルで **shutdown** と **isolate** の両方が設定されている場合、**shutdown** コマンドが優先されます。

コマンド	説明
isolate	プロトコルをスイッチから分離し、プロトコルをメンテナンスモードにします。
no isolate	プロトコルを復元し、プロトコルを通常モードにします。

コマンド	説明
shutdown	プロトコルまたは vPC ドメインをシャットダウンします。
no shutdown	プロトコルまたは vPC ドメインを起動します。
system interface shutdown [exclude fex-fabric]	システム インターフェイスをシャットダウンします (管理インターフェイスを除く)。
no system interface shutdown [exclude fex-fabric]	システム インターフェイスを起動します。
sleep instance <i>instance-number seconds</i>	指定の秒数だけコマンドの実行を遅延させます。コマンドの複数のインスタンスを遅延できます。 <i>instance-number</i> および <i>seconds</i> 引数の範囲は、0 ~ 2177483647 です。
python instance <i>instance-number uri [python-arguments]</i> 例 : python instance 1 bootflash://script1.py	Python スクリプトの呼び出しをプロファイルに設定します。コマンドの複数の呼び出しをプロファイルに追加できます。 Python 引数には最大 32 文字の英数字を入力できます。



(注) Cisco NX-OS リリース 9.3(5) 以降、**isolate** コマンドは **include-local** オプションとともに提供されます。これは、**router bgp** にのみ適用されます。

このオプションを使用すると、BGP はピアからすべてのルートを取り消します。このオプションを使用しない場合、BGP はリモートで学習したルートのみを撤回し、集約、注入、ネットワーク、再頒布などのローカルで生成されたルートは、eBGP ピアへの最大の Multi-Exit Discriminator (MED) と iBGP ピアへの最小のローカルプリファレンスで引き続きアドバタイズされます。

スナップショット

Cisco NX-OS では、スナップショットは選択した機能の実行状態をキャプチャし、永続ストレージメディアに保存するプロセスです。

スナップショットは、グレースフル削除前とグレースフル挿入後のスイッチの状態を比較する場合に役立ちます。スナップショットプロセスは、次の 3 つの部分で構成されます。

- 事前に選択したスイッチの一部機能の状態のスナップショットを作成し、永続ストレージメディアに保存する
- さまざまな時間間隔で取得したスナップショットを一覧にして、管理する
- スナップショットを比較して、機能間の相違を表示する

メンテナンスモード (GIR) のワークフロー

グレースフル挿入と削除 (GIR) のワークフローを完了する手順は、次のとおりです。

1. (任意) メンテナンスモードプロファイルを作成します ([メンテナンスモードプロファイルの設定 \(5 ページ\)](#) を参照)。
2. (任意) 通常モードプロファイルを作成します ([通常モードプロファイルの設定 \(7 ページ\)](#) を参照)。
3. グレースフル削除をトリガーする前のスナップショットを取得します ([スナップショットの作成 \(8 ページ\)](#) を参照)。
4. グレースフル削除をトリガーして、スイッチをメンテナンスモードにします ([グレースフル削除のトリガー \(12 ページ\)](#) を参照)。
5. グレースフル挿入をトリガーして、スイッチを通常モードに戻します ([グレースフル挿入のトリガー \(14 ページ\)](#) を参照)。
6. グレースフル挿入をトリガーした後のスナップショットを取得します ([スナップショットの作成 \(8 ページ\)](#) を参照)。
7. `show snapshots compare` コマンドを使用して、グレースフル削除と挿入の前後のスイッチの運用データを比較して、すべてが想定どおりに動作していることを確認します ([GIR 設定の確認 \(17 ページ\)](#) を参照)。

プロファイル

デフォルトでは、すべての有効なプロトコルは、グレースフル削除中に分離され、グレースフル挿入時に復元されます。プロトコルは、定義済みの順序で分離および復元されます。

プロトコルを個別に分離、シャットダウン、または復元する (あるいは追加の設定を実施する) 場合は、グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、プロファイルを作成できます。ただし、プロトコルの順序が正しいことを確認し、すべての依存関係を考慮する必要があります。

スイッチは、次のプロファイルをサポートしています。

- **メンテナンスモードプロファイル**: スwitchがメンテナンスモードになったときに、グレースフル削除中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

- 通常モードプロファイル：スイッチが通常モードに戻ったときに、グレースフル挿入中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

プロファイルでは、次のコマンド（および任意の設定コマンド）がサポートされています。

コマンド	説明
isolate	プロトコルをスイッチから分離し、プロトコルをメンテナンスモードにします。
no isolate	プロトコルを復元し、プロトコルを通常モードにします。
shutdown	プロトコルをシャットダウンします。
no shutdown	プロトコルを起動します。
system interface shutdown [exclude fex-fabric]	システム インターフェイスをシャットダウンします（管理インターフェイスを除く）。
no system interface shutdown [exclude fex-fabric]	システム インターフェイスを起動します。
sleep instance <i>instance-number seconds</i>	指定の秒数だけコマンドの実行を遅延させます。コマンドの複数のインスタンスを遅延できます。 <i>instance-number</i> および <i>seconds</i> 引数の範囲は、0 ~ 2177483647 です。
python instance <i>instance-number uri [python-arguments]</i> 例： python instance 1 bootflash://script1.py	Python スクリプトの呼び出しをプロファイルに設定します。コマンドの複数の呼び出しをプロファイルに追加できます。 Python 引数には最大 32 文字の英数字を入力できます。

メンテナンス モード プロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、メンテナンス モード プロファイルを作成できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure maintenance profile maintenance-mode 例 : <pre>switch# configure maintenance profile maintenance-mode Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config-mm-profile)#</pre>	メンテナンス モード プロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。 設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを停止する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、 プロファイル (4 ページ) を参照してください。
ステップ 2	end 例 : <pre>switch(config-mm-profile)# end switch#</pre>	メンテナンス モード プロファイルを終了します。
ステップ 3	show maintenance profile maintenance-mode 例 : <pre>switch# show maintenance profile maintenance-mode</pre>	メンテナンス モード プロファイルの詳細を表示します。

例

次に、メンテナンス モード プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configure maintenance profile maintenance-mode
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-mm-profile)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# shutdown
switch(config-mm-profile)# system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile maintenance-mode
[Maintenance Mode]
router bgp 100
  shutdown
router eigrp 10
  shutdown
  address-family ipv6 unicast
    shutdown
system interface shutdown
```

通常モード プロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、通常モードプロファイルを作成できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure maintenance profile normal-mode 例： <pre>switch# configure maintenance profile normal-mode Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config-mm-profile)#</pre>	通常モードプロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。 設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを起動する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、 プロファイル (4 ページ) を参照してください。
ステップ 2	end 例： <pre>switch(config-mm-profile)# end switch#</pre>	通常モードプロファイルを終了します。
ステップ 3	show maintenance profile normal-mode 例： <pre>switch# show maintenance profile normal-mode</pre>	通常モードプロファイルの詳細を表示します。

例

次に、メンテナンス モードプロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configure maintenance profile normal-mode
switch(config-mm-profile)# no system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# no shutdown
switch(config-mm-profile)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile-router)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile normal-mode
[Normal Mode]
no system interface shutdown
router eigrp 10
  no shutdown
  address-family ipv6 unicast
    no shutdown
router bgp 100
```

no shutdown

スナップショットの作成

選択した機能の実行状態のスナップショットを作成できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>snapshot create <i>snapshot-name description</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# snapshot create snap_before_maintenance Taken before maintenance Executing 'show interface'... Done Executing 'show ip route summary vrf all'... Done Executing 'show ipv6 route summary vrf all'... Done Executing 'show bgp sessions vrf all'... Done Executing 'show ip eigrp topology summary'... Done Executing 'show ipv6 eigrp topology summary'... Done Feature 'vpc' not enabled, skipping... Executing 'show ip ospf vrf all'... Done Feature 'ospfv3' not enabled, skipping... Feature 'isis' not enabled, skipping... Feature 'rip' not enabled, skipping... Snapshot 'snap_before_maintenance' created</pre>	<p>選択した機能の実行状態または運用データをキャプチャし、データを永続ストレージメディアに保存します。</p> <p>最大 64 文字の英数字のスナップショット名と最大 254 文字の英数字の説明を入力できます。</p> <p>すべてのスナップショットまたは特定のスナップショットを削除するには、snapshot delete {all <i>snapshot-name</i>} コマンドを使用します。</p>
ステップ 2	<p>show snapshots</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots Snapshot Name Time Description ----- snap_before_maintenance Wed Aug 19 13:53:28 2015 Taken before maintenance</pre>	<p>スイッチ上に存在するスナップショットを表示します。</p>
ステップ 3	<p>show snapshots compare <i>snapshot-name-1 snapshot-name-2</i> [summary ipv4routes ipv6routes]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots compare snap_before_maintenance snap_after_maintenance</pre>	<p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p> <p>summary オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		ipv4routes および ipv6routes オプションは、2つのスナップショット間のIPv4およびIPv6ルートの変更を表示します。

例

次に、2つのスナップショット間の変更の概要の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 summary
feature                               snapshot1  snapshot2  changed
basic summary
  # of interfaces                      16         12         *
  # of vlans                           10         4          *
  # of ipv4 routes                      33         3          *
  .....

interfaces
  # of eth interfaces                  3          0          *
  # of eth interfaces up               2          0          *
  # of eth interfaces down             1          0          *
  # of eth interfaces other            0          0

  # of vlan interfaces                 3          1          *
  # of vlan interfaces up              3          1          *
  # of vlan interfaces down            0          0
  # of vlan interfaces other           0          1          *
  .....
```

次に、2つのスナップショット間のIPv4ルートの変更の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 ipv4routes
metric                               snapshot1  snapshot2  changed
# of routes                          33         3          *
# of adjacencies                      10         4          *

Prefix                               Changed Attribute
-----                               -
23.0.0.0/8                           not in snapshot2
10.10.10.1/32                         not in snapshot2
21.1.2.3/8                            adjacency index has changed from 29 (snapshot1) to 38 (snapshot2)
.....

There were 28 attribute changes detected
```

スナップショットへの **show** コマンドの追加

スナップショットでキャプチャされる追加の **show** コマンドを指定できます。それらの **show** コマンドは、ユーザ指定のスナップショット セクションで定義されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>snapshot section add section <i>"show-command" row-id element-key1</i> <i>[element-key2]</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name</pre>	<p>ユーザ指定のセクションをスナップショットに追加します。<i>section</i> は、show コマンドの出力に名前を付けるために使用されます。任意の単語を使用して、セクションに名前を付けることができます。</p> <p>show コマンドは、引用符で囲む必要があります。show 以外のコマンドは拒否されます。</p> <p><i>row-id</i> 引数では、show コマンドの XML 出力の各行エントリのタグを指定します。<i>element-key1</i> および <i>element-key2</i> 引数では、行エントリ間を区別するために使用されるタグを指定します。ほとんどの場合、行エントリ間を区別するために指定する必要があるのは <i>element-key1</i> 引数だけです。</p> <p>(注) スナップショットからユーザ指定のセクションを削除するには、snapshot section delete section コマンドを使用します。</p>
ステップ 2	<p>show snapshots sections</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots sections</pre>	<p>ユーザー指定のスナップショットセクションを表示します。</p>
ステップ 3	<p>show snapshots compare snapshot-name-1 snapshot-name-2 [summary ipv4routes ipv6routes]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots compare snap1 snap2</pre>	<p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p> <p>summary オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p> <p>ipv4routes および ipv6routes オプションは、2つのスナップショット間の IPv4 および IPv6 ルートの変更を表示します。</p>

例

次に、**show ip interface brief** コマンドを myshow スナップショット セクションに追加する例を示します。この例では、2つのスナップショット (snap1 および snap2) が比較され、両方のスナップショットにユーザ指定のセクションが表示されます。

```
switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name
switch# show snapshots sections
user-specified snapshot sections
-----
[myshow]
  cmd: show ip interface brief
  row: ROW_intf
  key1: intf-name
  key2: -

[sect2]
  cmd: show ip ospf vrf all
  row: ROW_ctx
  key1: instance_number
  key2: cname

switch# show snapshots compare snap1 snap2
=====
Feature                Tag                snap1                snap2
=====

[bgp]
-----

[interface]
-----

      [interface:mgmt0]
                vdc_lvl_in_pkts          692310                **692317**
                vdc_lvl_in_mcast        575281                **575287**
                vdc_lvl_in_bcast        77209                 **77210**
                vdc_lvl_in_bytes        63293252              **63293714**
                vdc_lvl_out_pkts        41197                 **41198**
                vdc_lvl_out_ucast       33966                 **33967**
                vdc_lvl_out_bytes       6419714               **6419788**
-----

[ospf]
-----

[myshow]
-----

      [interface:Ethernet1/1]
                state                    up                    **down**
                admin_state              up                    **down**
-----
```

グレースフル削除のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作を実行するために、スイッチのグレースフル削除をトリガーして、スイッチを取り出し、ネットワークからそのスイッチを分離できます。

始める前に

作成するメンテナンスモードプロファイルをシステムに使用させる場合は、[メンテナンスモードプロファイルの設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。</p>
ステップ 2	<p>system mode maintenance [dont-generate-profile timeout value shutdown on-reload reset-reason reason]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# system mode maintenance Following configuration will be applied: router bgp 65502 isolate router ospf p1 isolate router ospfv3 p1 isolate Do you want to continue (y/n)? [no] y Generating a snapshot before going into maintenance mode Starting to apply commands... Applying : router bgp 65502 Applying : isolate Applying : router ospf p1 Applying : isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : isolate Maintenance mode operation successful.</pre>	<p>すべての有効なプロトコルをメンテナンスモードにします (isolate コマンドを使用)。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dont-generate-profile : 有効なプロトコルの動的な検索が回避され、メンテナンスモードプロファイルに設定されているコマンドが実行されます。作成したメンテナンスモードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。 • timeout value : 指定した分数の間、スイッチをメンテナンスモードのままにします。範囲は5～65535です。設定した時間が経過すると、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。no system mode maintenance timeout コマンドは、タイマーを無効にします。 • shutdown : すべてのプロトコルおよび管理インターフェイスを除くインターフェイスをシャットダウンします (shutdown コマンドを使

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>用)。このオプションを指定すると中断が発生しますが、デフォルト (isolate コマンドを使用) の場合、中断は発生しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • on-reload reset-reason reason : 指定されているシステムクラッシュが発生した場合、スイッチは自動的にメンテナンスモードで起動します。 no system mode maintenance on-reload reset-reason コマンドを使用すると、システムクラッシュ時にスイッチがメンテナンスモードで起動するのを回避できます。 <p>メンテナンスモードのリセット理由は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HW_ERROR : ハードウェアエラー • SVC_FAILURE : 重大なサービス障害 • KERN_FAILURE : カーネルパニック • WDOG_TIMEOUT : ウォッチドッグタイムアウト • FATAL_ERROR : 致命的なエラー • LC_FAILURE : ラインカード障害 • MATCH_ANY : 上記のいずれかの理由 <p>続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は y、プロセスを終了する場合は n を入力します。</p>
<p>ステップ 3</p>	<p>(任意) show system mode</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Maintenance</pre>	<p>現在のシステムモードを表示します。</p> <p>スイッチはメンテナンスモードになっています。スイッチに対する目的のデ</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		バック操作やアップグレード操作を実行できます。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。このコマンドは、再起動後にメンテナンスモードを維持する場合に必要です。

例

次に、スイッチのすべてのプロトコルおよびインターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance shutdown
```

Following configuration will be applied:

```
router bgp 65502
 shutdown
router ospf p1
 shutdown
router ospfv3 p1
 shutdown
system interface shutdown
```

Do you want to continue (y/n)? [no] **y**

Generating a snapshot before going into maintenance mode

Starting to apply commands...

```
Applying : router bgp 65502
Applying : shutdown
Applying : router ospf p1
Applying : shutdown
Applying : router ospfv3 p1
Applying : shutdown
```

Maintenance mode operation successful.

次に、致命的なエラーが発生した場合に、スイッチを自動的にメンテナンスモードで起動する例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance on-reload reset-reason fatal_error
```

グレースフル挿入のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入をトリガーして、すべてのプロトコルを復元できます。

始める前に

作成する通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、[メンテナンスモードプロファイルの設定 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	<p>グローバル設定モードを開始します。</p>
ステップ 2	<p>no system mode maintenance [dont-generate-profile]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# no system mode maintenance dont-generate-profile Following configuration will be applied: router bgp 65502 no isolate router ospf p1 no isolate router ospfv3 p1 no isolate Do you want to continue (y/n)? [no] y Starting to apply commands... Applying : router bgp 65502 Applying : no isolate Applying : router ospf p1 Applying : no isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : no isolate Maintenance mode operation successful. Generating Current Snapshot</pre>	<p>すべての有効なプロトコルを通常モードにします (no isolate コマンドを使用)。</p> <p>dont-generate-profile オプションを指定すると、有効なプロトコルの動的な検索が回避され、通常モードプロファイルに設定されているコマンドが実行されず。作成した通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。</p> <p>続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は y、プロセスを終了する場合は n を入力します。</p>
ステップ 3	<p>(任意) show system mode</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Normal</pre>	<p>現在のシステムモードを表示します。スイッチは通常モードになっていて、完全に機能しています。</p>

メンテナンス モードの強化

リリース 7.0(3)I5(1) 以降、メンテナンス モードの次の機能拡張が Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチに追加されました。

- システム メンテナンス シャットダウン モードで次のメッセージが追加されます。

NOTE: The command system interface shutdown will shutdown all interfaces excluding mgmt 0.

- CLI コマンドを入力すると、**system mode maintenance** によって孤立ポートがチェックされ、アラートが送信されます。
- 隔離モードで vPC が設定されると、次のメッセージが追加されます。

NOTE: If you have vPC orphan interfaces, please ensure vpc orphan-port suspend is configured under them, before proceeding further.

- カスタム プロファイル設定：新しい CLI コマンド、**system mode maintenance always-use-custom-profile** がカスタム プロファイル設定に追加されます。新しい CLI コマンド、**system mode maintenance non-interactive** は Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチのみの `#ifdef` 下に追加されます。

(メンテナンスまたは通常モードで) カスタムプロファイルを作成すると、次のメッセージが表示されます。

Please use the command **system mode maintenance always-use-custom-profile** if you want to always use the custom profile.

- `after_maintenance` スナップショットが取得される前に遅延が追加されました。**no system mode maintenance** コマンドは、通常モードのすべての設定が適用され、モードが通常モードに変更され、`after_maintenance` スナップショットを取得するためのタイマーが開始されると終了します。タイマーの期限が切れると、`after_maintenance` スナップショットがバックグラウンドで取得され、スナップショットが完了すると新しい警告 Syslog、`MODE_SNAPSHOT_DONE` が送信されます。

CLI コマンド **no system mode maintenance** の最終出力は、`after_maintenance` スナップショットが生成されるタイミングを示します。

The `after_maintenance` snapshot will be generated in `<delay>` seconds. After that time, please use `show snapshots compare before_maintenance after_maintenance` to check the health of the system. The timer delay for the `after_maintenance` snapshot is defaulted to 120 seconds but it can be changed by a new configuration command.

`after_maintenance snapshot` のタイマー遅延を変更する新しい設定コマンドは、**system mode maintenance snapshot-delay <seconds>** です。この設定は、デフォルト設定の 120 秒を 0 ~ 65535 の任意の値に上書きします。これは ASCII 設定で表示されます。

現在のスナップショット遅延の値を表示する新しい `show` コマンド、**show maintenance snapshot-delay** も追加されています。この新しい `show` コマンドでは、XML 出力がサポートされています。

- システムがメンテナンス モードであるときに表示される CLI インジケータが追加されました (例: `switch(m-mode)#`)。
- CLI リロードまたはシステム リセットによってデバイスがメンテナンス モードから通常モードおよびその逆に移行するときの SNMP トラップのサポートが追加されました。
snmp-server enable traps mmode cseMaintModeChangeNotify トラップは、メンテナンスモードのトラップ通知の変更を有効にするために追加されました。
snmp-server enable traps mmode cseNormalModeChangeNotify は、通常モードへのトラップ通知の変更を有効にするために追加されました。デフォルトでは両方のトラップが無効になっています。

GIR 設定の確認

GIR の設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show interface brief	インターフェイスの要約情報を表示します。
show maintenance on-reload reset-reasons	スイッチがメンテナンスモードで起動されることになる、リセット理由を表示します。メンテナンスモードのリセット理由の説明については、 グレースフル削除のトリガー (12 ページ) を参照してください。
show maintenance profile [maintenance-mode normal-mode]	メンテナンスモードまたは通常モードのプロファイルの詳細を表示します。
show maintenance timeout	メンテナンスモードのタイムアウト期間を表示します。この期間後、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。
show {running-config startup-config} mmode [all]	実行コンフィギュレーションまたはスタートアップコンフィギュレーションのメンテナンスモードのセクションを表示します。 all オプションには、デフォルト値が含まれます。
show snapshots	スイッチ上に存在するスナップショットを表示します。

コマンド	目的
show snapshots compare <i>snapshot-name-1</i> <i>snapshot-name-2</i> [summary ipv4routes ipv6routes]	2つのスナップショットの比較を表示します。 summary オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。 ipv4routes および ipv6routes オプションは、2つのスナップショット間の IPv4 および IPv6 ルートの変更を表示します。
show snapshots dump <i>snapshot-name</i>	スナップショットの取得時に生成された各ファイルの内容を表示します。
show snapshots sections	ユーザー指定のスナップショットセクションを表示します。
show system mode	現在のシステム モードを表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。